

# 多様な主体による 協働事業の推進に向けて

～ 協働事業提案に基づく提言～

2005年8月

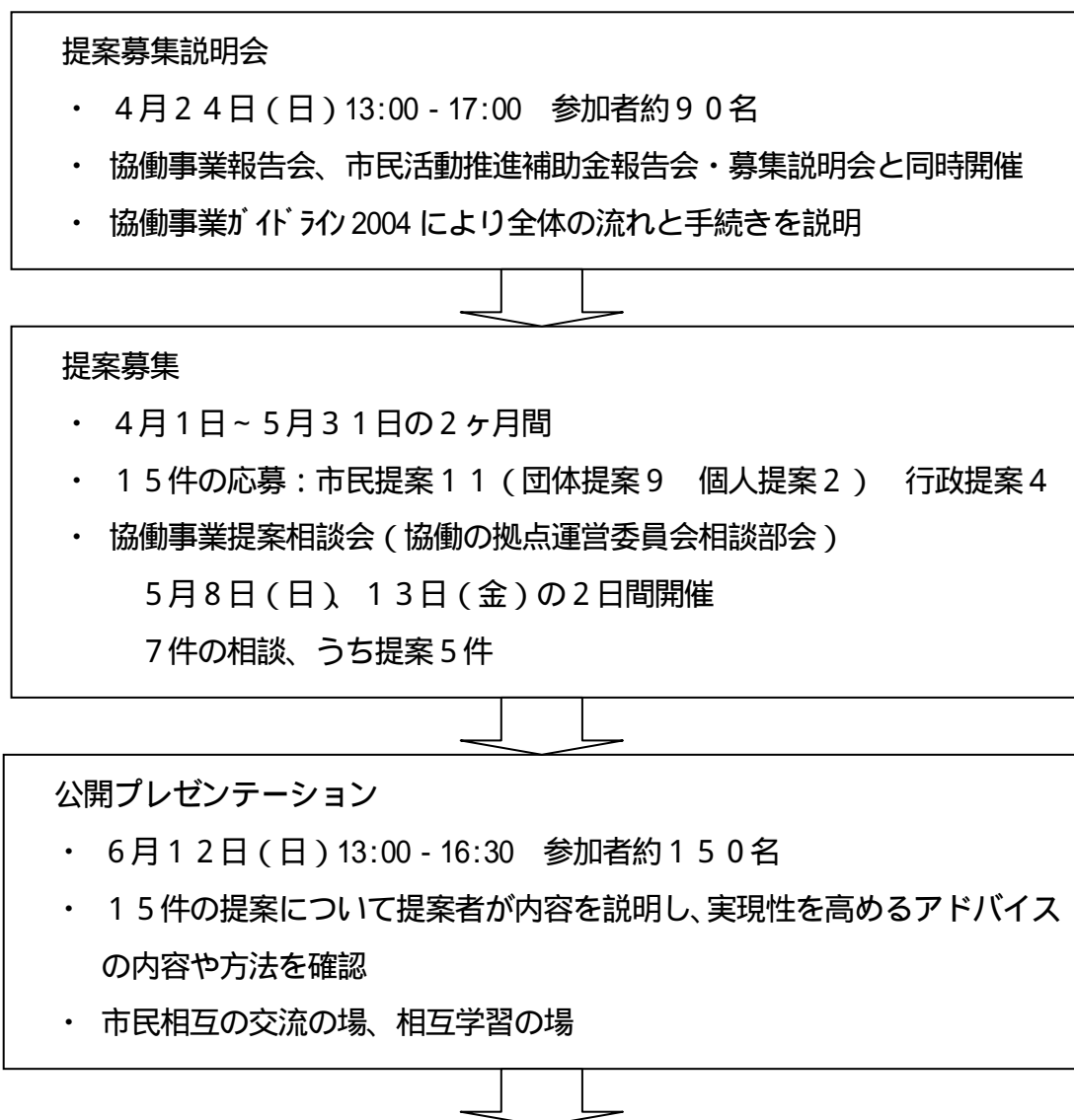
大和市協働推進会議

## 1 . はじめに

この提言は、大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例第13条第2項に基づき、大和市協働推進会議（渡辺精子代表）から大和市長へ行うものである。

## 2 . 経過

2005年度も公開性を基本として、一連の取組みを進めてきた。



### 公開調整

- ・ 公開検討会（7月17日）までの1ヶ月間
- ・ 提案ごとに情報収集、打合せ等を通じて、事業化の可能性を検討し、課題等を整理
- ・ 提案者、担当課、担当委員（介添え役）、事務局が参加し、計15回の調整会議を開催 調整会議の記録は公開
- ・ 行政提案については、意見交換会を開催、6月30日（木）[提案課、市民・市民団体等、担当委員、事務局が参加]

### 公開検討会

- ・ 7月17日（日）13:00 - 16:30 参加者約120名
- ・ 公開調整の結果を受けて、提案の可能性や実現性について検討
- ・ 11件の市民提案のうち、三者（提案者、担当課、委員）による検討では、3件の提案について実現性が高いという結果

### 協働推進会議から市長への提言

- ・ 8月19日（金）

## 3 . 2004 年度からの改善点について

条例運用にあたっては、「成長するシステム」として、具体的な事例を積み重ねながら、多様性を尊重した柔軟でゆるやかな制度づくりを進めていくことが確認されている。

「2 . 経過」でふれたように、一連のプロセスについては基本的に2004年度の流れを踏襲しているが、2004年度からの主な改善点は次のとおりである。

### (1) 募集期間と事前周知について

2004年度の課題として、提案の募集期間（1ヶ月間では短い）と事前周知の充実があげられていた。このため、2005年度は募集期間を4月～5月の2ヶ月間とするとともに、事前周知については、2004年度に引き続き、ダイレクトメール（約150通）、市民活動センターを含む市内公共施設でのちらし配布やポスター掲示（30施設、約500部）、ホームページ・メーリングリスト・どこコミでの情報提供を行った。また、2005年度は県内の市民活動支援機関にも周知をおこなった。

## **(2) 協働事業提案の相談会について**

具体的な提案の事例が増えるにつれ、重点的に取り組むべき課題が明らかになってきている。

提案の前に、提案者の想いを確認しながら関連情報を集め、アドバイスを行うなかで、内容の具体性や実現性を高め協働事業の形にしていくための、相談機能を充実強化する必要があることから、「協働事業を育てる仕組みの具体化」が2004年度の提言において取り上げた。

そこで、2005年度は、2004年10月末にオープンした市民活動センターにおいて協働の拠点運営委員会に協力いただき、運営委員会相談部会による「協働事業提案相談会」が開催された。2日間の相談日で、7件の相談がありこのうち5件が実際に提案され、実績をあげている。

## **4 . 重点的に取り組むべき課題**

協働事業提案の制度は、毎年の実績を検証しながら少しずつ成長してきており、「協働事業ガイドライン」として共有されてきているが、3年目を迎えて、重点的に取り組むべき課題が明らかになっている。

### **(1) 協働事業の評価について**

現在、協働事業提案制度は「成長するシステム」のもと毎年の事例を積み重ねながら柔軟な制度づくりを進めているが、より良い仕組みづくりのためには、個々の事業をきちんと評価していくことが必要である。そのために、協働事業の評価システムの検討が重点的に取り組むべき課題であることは、2004年度の提言でも取り上げた。

検討の第一歩として、04年度に「協働事業現場ヒアリング」を実施したところであるが、この結果、評価の基準として、情報の公開性・行政との対等性・当初目標の達成度が必要ということが確認された。また、協働事業を実施している現場の情報を共有していくことの重要性も指摘された。

これらの実績を踏まえ、過程を重視するとともに、社会的効果や数値で表現しにくいソフト面など様々な視点からの成果に着目した多様な評価システムの確立をめざし、今年度はプロジェクトチームを設置し検討していく予定である。

なお、行政内部でも「協働推進ワーキンググループ」において協働事業の評価について検討されていることから、ワーキンググループとの意見交換等の場を設け、市民・行政双方からの視点を取り入れた評価システムをめざしたい。

さらに、単に評価するだけでなく協働事業実施段階における見守りや情報を共有す

ることで共育ちにつながるものとしていきたい。

## **(2) 行政提案型の協働事業の推進について**

04年度の協働する相手が決まっていた行政提案から一歩進めて、相手を募集していく行政提案が4件出されたことは評価する。

行政提案についてはいまだ社会的実験の段階と捉え、現在は便宜上市民提案のルールを行政提案にあてはめているものであるが、募集の時期や期間など難しい面がある。

また、提案内容そのものについても、従来の担当課がそれぞれ行っていた委員公募との区別がつきにくい提案もある。

今回、公開調整期間中に、提案した担当課と応募を考えている市民等に参加いただき、協働事業の可能性を探るため意見交換会を実施したが、この場でも様々な意見が出された。

協働推進会議では、行政提案を早急に取り組むべき課題と考え「プロジェクトチーム」を設置し検討することになっている。今年度の提案を検証することで、行政提案の望ましい内容、ルールを提示していきたい。

## **(3) 協働事業を育てる仕組みの充実**

昨年10月に市民活動センターがオープンし、市民活動を支援する仕組みが具体的な形となってきている。04年度に課題となった「協働事業を育てる仕組み」についても協働の拠点運営委員会により協働事業提案相談会が開催されるなど、大和市民活動センターがいつでも市民活動の「情報」の受発信の装置として捉えられ、日常的に「相談」ができる体制を整えてきている。

一方で、協働事業を提案したものの公開プロセスの経過で協働事業として難しいとの結果が出された場合活動自体が認められないように受け止めてしまった事例も聞く。このため、今回協働事業としては形にならなくても、計画を練り直し将来の提案へ向けた具体的な意見、あるいは協働事業以外の形で取り組める方法など、提案者の想いを実現するための方向性が見出せるようなフォローの仕組みを含めた、相談機能の充実が望まれている。協働の拠点運営委員会とも連携をはかりながら、協働事業を育てる仕組みの充実に努めたい。

#### **(4) 整理と定着**

協働事業提案制度が少しずつ浸透し提案の主体が広がっていくにつれ、協働事業についての認識の食い違いが見うけられる。関係するいろいろな立場の人（提案者、推進会議委員、協働の拠点運営委員会委員、行政担当課等）の間で、協働事業に対するイメージが共有されていないことによる混乱が一部で見られた。これは、協働事業に取り組むにあたり重要なポイントである、相互理解を深めるということを阻害してしまうことにもつながる。

このため、「(1) 協働事業の評価について」にも関連するが、3年間の協働事業提案の事例を整理し、協働事業提案を検討する誰もが確認できるような指標的なものを示すなどの対応を検討する必要がある。

重点的に取り組むべき課題として04年度提言であげた「PR冊子の作成」に05年度は取り組む予定であるが、作成にあたっては、上記内容も踏まえ、協働推進会議の05年度テーマである「整理と定着」を図っていくこととしたい。

なお、今年も多く市の職員が協働事業提案の公開プロセスに参加協力いただいているが、まだ職員の理解が不十分に思われる場面もあることから、なお一層理解を深めるようお願いしたい。

#### **(5) 協働事業の担い手について**

今回、事業者が関係する提案が多かったことも特徴であったが、事業者の営利活動との境をどのようにつけていったらよいか、難しいこともあり公開調整の過程でその具体的な考え方について課題となった。

事業者について条例制定の過程でも「新しい公共の担い手」として位置づけるものの、具体的には運用の場で検討していくことで持ち越されていた。今回協働推進会議としては個別の協働事業提案の内容について「協働事業として進めるべき」との意見を付すことで判断を示し、一定の責任を持つこととした。今後事例を積み上げる中で形にしていきたい。

## 5 . 2005 年度の協働事業提案について

15 件の協働事業提案の内容、検討結果等を 7 ページ以降に個別に示す。

### \* 行政提案について

「4 . 重点的に取り組むべき課題」でもふれたように、行政提案型の協働事業についてまだ実験段階と捉えている。このため、今回提案された行政提案の4 件については、3 段階の評価は行っていない。

より良い協働事業としていただくため、事業ごとの意見を個別に示しているが、併せて、各担当課におかれては、応募された市民・市民団体等と十分な協議を行い、提案した事業内容にこだわることのない柔軟な対応をお願いしたい。

## 6 . むすび（大和市協働推進会議代表 渡辺精子）

多様な主体による2005 年度の協働事業提案は「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づき、公開の過程を大切にしながら進められてきた。15 件の提案それぞれが協働事業への実現に向けて、活発な議論をしながら丁寧に調整・検討を行った。特に市会議員の協働事業への係わり方については、時間をかけて議論され、一定の方向性へのあしがりが出てきた。また、条例運用にあたっては「成長するシステム」の方針に沿って、重点的に取り組むべき課題一つ一つを、望ましい内容やルールを提示しながら「整理と定着」を図っていくこととした。このような事柄が盛り込まれた提言は、市側の検討結果を待ち事業の具体化に向けて次の段階へと進む運びとなる。今後の展開は提案者と市が中心となるが、みんなで作る新しい公共の推進役として協働推進会議の果たす役割は大きく、進み方の方向の再検討も含め機能を充実させ発展させていきたい。

最後に、この提言に対する市長の誠実な対応をお願いするものである。

## 協働事業提案一覧

類型	番号	提案事業名	グループ	協働事業への取り組み方
市民提案	1	市役所関連施設の忘れ物傘の再利用(リユース)事業	E	<b>協働事業として推進すべき</b>
	2	市民へのより良いスポーツ環境の提供	B	総合型地域スポーツクラブの方向検討
	3	出張教室からひろがる温暖化を考える会	C	情報提供・相談
	4	つきみ野けやき並木再生に向けて	D	地元プロジェクトに期待
	5	つま自然の森 緑育事業 緑を育て、緑で育つ	D	協働事業への検討継続
	6	カラオケとふれあいの場「ミニディサロン」	A	協働事業への検討継続
	7	空き店舗活用による子どもの居場所作り	E	協働事業への検討継続
	8	新体操教室	B	総合型地域スポーツクラブの方向検討
	9	高齢者の体力作り支援事業	A	<b>協働事業として推進すべき</b>
	10	まほろば子ども文芸大賞	C	教育委員会との連携に期待
	11	ボランティア預託 LOVES	E	(取り下げ)
行政提案	12	「防犯マニュアル」作成事業	F	/
	13	道路環境美化ボランティアの里親制度 (アダプト・プログラム)	F	
	14	‘ふくしの手 全員集合’	F	
	15	資源とごみの出し方変更に関する市民説明会 協働開催事業	F	

協働事業として進めるべきとした提案は2件。  
 協働事業への検討継続をすべきとした提案は3件。  
 グループの担当推進委員は次のとおり(敬称略)

A	宇津木朋子、池本薫、筑地成彦
B	熊谷薫、渡辺精子
C	大野一枝、木之下純、平塚恵一
D	内海麻利、小原俊明、中村一夫
E	小杉皓男、杉山和子、玉木佑未子
F(行政提案)	河崎民子、林泰義、百瀬比奈子、八木繁和



1. 事業名	<b>市役所関連施設の忘れ物傘の再利用(リユース)事業</b>				
2. 提案者	二条通り商店街振興組合 エコ倶楽部 平多 千春(ひらた ちはる)				
3. 事業の目的	1) 廃棄予定品を再利用(リユース)し、ごみ減量化意識を啓発する。 2) 突然の雨の時、商店街を通りかかった傘を持っていない方に傘を、貸し出し、市民の利便性の向上を図る。 3) 返却を前提とした貸し出しとすることで、物を大切にすることを育てる。 4) 二条通り商店街を中心に環境問題のコミュニティを育てる。				
4. 事業の内容	1) 市役所関連施設の忘れ物傘より、再利用(リユース)可能な物を二条通り商店街振興組合が譲り受ける。 2) 突然の雨の時に来街者の方々に再利用(リユース)傘として貸し出す。 3) 利用者は後日、借り受けたお店に返却する。				
5. 市に期待すること	1)市役所関連施設の忘れ物傘の提供				
公開検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者	契約管財課、環境総務課、産業振興課		
		推進委員	小杉、杉山、玉木		
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・またひとつ「協働」の突破口をつくったと思っています。(小杉)</li> <li>・公益性を生かすことのできる事業だと思う。(杉山)</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業として推進すべき。</li> <li>・傘の提供にあたり関連する法令について、市が積極的に解釈いただいたことに感謝する。</li> <li>・大和市の協働事業であることを傘に明示しアピールすることで、協働事業制度自体の周知につなげてほしい。</li> <li>・貸し出しにあたり、氏名等を記載する場合には個人情報保護の体制を整備してほしい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	協働事業として進めていただくにあたり、次の点について検討いただきたい <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市の協働事業であることを明示すること。</li> </ul>				

1. 事業名	<b>市民へのより良いスポーツ環境の提供</b>				
2. 提案者	NPO法人 リアライズ				
3. 事業の目的	バスケットボールをしたいが個人ではできない、また、大和市の小学校には正規のバスケットボールコートが無く5つあるミニバスチームは他の市に比べ恵まれない環境にある。そんな現状を解決して行くと共に、より高いレベルを子供達に伝えて行くこと、また、スポーツ医学・栄養学・トレーニング方法などの専門知識を普及して行き安心してスポーツに取り組める環境をつくり、その環境をバスケットボール以外の競技にも広められる環境作り。子供達に、学校以外で得られる集団の場を提供する。				
4. 事業の内容	<p>小学生向け大和スポーツセンター・バスケットボール開放日の開設と運営。  中学生以上への同バスケットボール開放日の開設と運営。  小中学生対象のバスケットボール教室の開催  全スポーツ対象のスポーツ医学、栄養学講座等の開講。  スポーツ相談室の開設と運営。  子供の居場所づくり</p>				
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の提供、共有</li> <li>広報活動</li> </ul>				
公開検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者		スポーツ課	
	7. コメント	推進委員		渡辺	熊谷
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案者の要望を実現するためには、スポーツ全般についての考え方の整備が必要。(熊谷)</li> <li>総合型地域スポーツクラブの検討に協力したいとの意向を持っている。(渡辺)</li> <li>市が市民と共に今後のスポーツセンター利用について議論を深めていくべき。</li> <li>提案は、バスケットボールの普及とあわせて場としての体育館の利用を希望されている部分もあるが、大きな捉え方をすると、大和のスポーツ振興を進めていくため、大和スポーツセンター等の公共施設の運営のあり方について問題提起されているものと受け止められる。</li> <li>文部科学省が推進する「総合型地域スポーツクラブ」について、大和市ではいまだ方向性が決まっていないことから、今後検討いただきたい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>提案の趣旨を踏まえ、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大和市の総合型地域スポーツクラブの方向性の検討を進めること</li> <li>スポーツ関係の公共施設の運営のあり方について市民参加を得た検討を進めること</li> </ul>				

1. 事業名	<b>出張教室からひろがる温暖化を考える会</b>				
2. 提案者	五十嵐 典生				
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギー事情をとおして、子どもたちに地球温暖化をつたえ、新エネルギーの理解を深めてもらい、子どもの将来と創造に貢献していくもの。</li> <li>・ 地球環境に関するイベントや勉強会等、その要望、需要に応えるもの。</li> <li>・ 新エネルギー導入促進をすすめ、それによる生活環境の転換を促進し温暖化をおさえる活動。</li> </ul>				
4. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新エネルギーに対する理解を深めるために、その楽しさや創造をかきたてるため、文字や話だけでなく、触れ遊び実体験し学んでもらう。</li> <li>・ 公共イベントへの参加：大和市民まつり、大和産業フェア等</li> <li>・ 希望により学校授業への参加</li> <li>・ みどりの学校等各機関の活動手段として利用してもらおう。</li> </ul>				
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の提供、共有</li> <li>・ 活動場所の提供</li> <li>・ 広報活動</li> <li>・ 環境イベントを増加</li> </ul>				
公開検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者		環境総務課	
		推進委員		大野、木之下、平塚	
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温暖化教室だけでも、協働事業として熟度を高め、開催したい。(大野)</li> <li>・ 具体的に出張教室でどんな内容を取り上げ、市行政側がどう関われるかが見えにくい。多くの人々(NPO)が地球環境の問題についての活動をしているので、もう少し学んでみてはどうでしょうか?(木之下)</li> <li>・ 新エネルギーに関しての具体的な内容を盛り込んだ「台本」のようなものを講演する場を踏まえたくて準備していただきたい(平塚)</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案者には、講演するにあたっての新エネルギーのカテゴリーを決めていただきたい。</li> <li>・ 提案者には、協働事業を進めるために、得意とする分野を中心として事業の具体性を高めるため、提案内容の熟度を高めてほしい。市から提案のあった「環境立市フェア」に参加し市民同士の交流も広げてはどうか。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案者が熟度を高めていくために次の点を検討いただきたい。</li> <li>・ 情報提供をはじめ、提案者の相談に継続的に応じること</li> </ul>				

1. 事業名	<b>つきみ野けやき並木再生に向けて</b>				
2. 提案者	つきみ野けやき並木を考える有志の会 代表 村越美和子				
3. 事業の目的	<p>つきみ野には樹齢40年、69本のけやき並木があります。年々成長を続けることにより道路への影響および落ち葉、日照等による沿道住民の負担が問題視され、全面伐採が一旦決定されましたが、地域住民のけやきに対する愛着等が考慮され計画が見直されることになりました。しかし、伐採すべき基準、今後の維持管理等、未解決の事項が多々あります。その中でも大きな問題が剪定方法です。長年続いた強剪定が現在の乱れた樹形の原因であり、反面、正しい剪定を続けることが今後の維持管理に欠かせません。専門家の指導のもとけやきらしさを残しつつ、つきみ野にふさわしい大きさに再生させる剪定をモデル的に実施し、樹齢40年の貴重な樹木を守り育てる指針を作成したいと考えます。地域住民の原風景となっている並木を住民と行政の協働により、問題を解決しつつ、次世代に引き継ぐことが大切と考えます。</p>				
4. 事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>モデル剪定 経験のある樹木医の指導により、再生対象の樹木をつきみ野の対象地区にあった大きさに試験的に切り詰め剪定し、再生プランの具体例を地域に示し理解を得る。落葉期の剪定が必須のためこの秋をめどに実施。</li> <li>落ち葉負担を軽減させるため、地域住民による落ち葉サポーターの募集および活動。</li> <li>病気の樹木、ある程度手を加えても存続させることが難しいとおもわれる樹木を専門家の指導のもとに選定</li> <li>プチ樹木医育成活動 住民の樹木に対する知識、意識の向上を図るー</li> </ol>				
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>街路樹の管理者として現状の問題点を認識し、市民に愛される街路樹を形成していくために市民と協働してこの問題に対応して下さること</li> </ul>				
公開検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者			土木総務課、土木管理課
		推進委員	内海、小原		中村
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会との協議の場づくり(内海)</li> <li>テーマとしては、実現性が高い。(小原)</li> <li>_____</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>けやき並木をまちの財産として活かし、まちを豊にしていくことは大切な問題であると受け止める。</li> <li>一方、この問題については、地域全体で十分な議論を進める必要があると思われる。</li> <li>このため、現在地元で検討プロジェクトが進められていることから、協働事業の内容については、現時点ではこのプロジェクトの検討に委ねる方が良いと判断する。</li> <li>地元プロジェクトで検討した中から、来年度以降協働事業の発案が出てくることを期待したい。</li> <li>_____</li> </ul>				

9. 具体的に検討を要請する事項	提案の趣旨を踏まえ、次の点について検討いただきたい。 ・ 地元検討プロジェクトにおいて十分な議論を進めること
------------------	---

は再掲載に当たり非公開

1. 事業名	つるま自然の森 りよく いく <b>緑 育事業</b> 緑を育て、緑で育つ				
2. 提案者	『リーフパイ』代表：島田順子				
3. 事業の目的	<p>緑育事業は、子ども達が緑を育て、そしてその緑で子ども達もまた育つことを目的とします。</p> <p>緑育事業は、地域の大人たちが緑を育てる子ども達を手助けしながら、コミュニケーションを図り、大人の知恵を伝え、森を愛する心を育みながら、緑を残すことを目的とします。</p> <p>緑育事業は、子ども達と内山自治会や内山子ども会、内山を住みよくする会、森の地権者の皆さん、つるまの森保全協会の、森に親しむすべての大人たち、そして、大和市役所ご担当部署の方々と大きな輪となって、緑を育て合うことを目的とします。</p>				
4. 事業の内容	<p>森が森として美しくあるための管理と保全の手法を編み出します。</p> <p>森の柵を完成させ、現状の柵の痛んだ部分を補修します。</p> <p>森のイベントを告知する掲示板を林内、数カ所に建てます。</p> <p>森の利用と保全の折り合いを生き物と相談しながら進めます。</p> <p>年間の草刈り計画/間伐計画を立て、実行します。</p> <p>計画には十分な時間をかけ、近隣の要望も聞き、長期見通しのスケジュールを立て、実行に移します。</p> <p>毎木調査（本数/樹種/樹高/胸高直径など）、植生調査、生き物調査（野鳥/昆虫/爬虫類など）観察会をかねて行います。</p> <p>“つるま自然の森”の利用の変遷を（聞き取り）調査することも、今後の森再生の参考になると考えます。</p>				
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の提供、共有</li> <li>活動場所の提供</li> <li>広報活動</li> <li>説明会等への参加</li> <li>行政機関等との連絡調整</li> </ul> <p><b>地主さんへの声かけ</b>：“つるま自然の森”のすべての地主さんに、は無理としても、森の保全に力を貸して下さる地主さんに、本事業への参加を呼びかけて下さい。</p> <p><b>内山自治会への交渉</b>：市民と一緒に森を保全することを提案し、自治会に或いは子ども会に共催して貰えるように、橋渡しをして下さい。</p> <p><b>中央林間小学校・つきみ野中学校への提案</b>：授業に森を活用しても貰えるように、森の紹介、森のイベントに子ども達を誘わせて貰う（チラシの配布）等の協力を要請して下さい。</p> <p>森の柵/森の掲示板を造って下さい。</p> <p>場合によっては、材料の提供を受け市民が労働することも可能かと考えております。</p> <p>森の管理のための道具類（エンジン刈払機・草刈鎌・間伐が許された場合は、チェーンソー・手押し車・これらを収納する鍵の掛かる倉庫等など）を提供して下さい。</p> <p>中央林間コミセンに、倉庫を設置できる場所を確保して下さい。</p>				
公開 検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他（検討すべき内容を含む）
		事業提案者			
		協働対象者	水と緑課		
		推進委員	内海、小原、中村		

	7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者から市との調整結果を踏まえ、今日新しい提案として「観察会を通じて、自然の記録調査とそのまとめの出版を行う」に対し、市として協働事業として協働が可能であれば、協働事業として取り上げたい。早い機会に市との調整が臨まれる（小原）</li> </ul>
*	公開検討会後の経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者の再提案について公開検討会当日は具体的な内容が分からなかったことから、詳細を提案者に伺い、改めて協働事業の可能性を確認するための調整会議が、7月30日に開催された。</li> <li>・調整の結果、水と緑課でできる範囲では協働事業として実施していくことが難しいことが提案者と担当課の間で確認された。</li> <li>・また、水と緑課が調整し、つま自然の森の保全・管理について、森にかかわる活動団体との話し合いの場を持つようにしていくことが確認された。</li> </ul>
8.	協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度市民活動推進補助金事業として、事業を行った。無理に協働事業としていくのではなく、それを進めていただくことのほうがよいのではないか。</li> <li>・基本的には市民事業として進めていただきたい。</li> <li>・提案者が「市に期待していること」であげている項目の中には、協働事業ではなく、市の事業の中で実施すべきものもあるのではないか。</li> </ul>
9.	具体的に検討を要請する事項	<p>提案者の活動支援にむけて、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水と緑課としてできることは、継続して行うとともに、森にかかわる団体との話し合いの場を設け、提案者が想いを実現していくための支援を行うこと</li> </ul>

1. 事業名	<b>カラオケとふれあいの場「ミニディサロン」</b>				
2. 提案者	ニコニコ会				
3. 事業の目的	<p>昼間使用していないスナックの場を無料で提供してもらう。          出合い、ふれあい、お互いに支えあうために地域福祉の拠点として、カラオケを中心とした心のふれあいの場所を作る。          閉じこもりをなくし、皆でワイワイガヤガヤと楽しく過ごす場所にする。</p>				
4. 事業の内容	<p>カラオケを中心とした、心のふれあいを事業の中心とし、誰でもが気軽に参加出来る場所を作り、将来的には、大和市内の各駅の近くに1ヶ所ぐらいの場所が出来るように協力者の輪を広げるよう努力したい。          (言語に障害のある方のカラオケを使ってのリハビリ、又は、グループホームの方などの行事の一つとして、又、高齢者と買い物に出かけた時の休息所としてなど)</p>				
5. 市に期待すること	<p>・情報の提供、共有 ・行政機関等との連絡調整          ・行政内の担当部署に対する広報活動</p>				
公開 検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者		高齢者福祉課、 障害福祉課	
		推進委員	宇津木、筑地		
7. コメント	<p>・飲食系組合等の合意を担保されたい。(筑地)          ・運営の方法は、参加者が主体的に決めることが望ましいと考える。(池本)          ・スナックという非日常的空間を社会資源として、地域に開放する発想が楽しい。是非成功させて市内に輪を広げてほしい。(宇津木)</p>				
8. 協働推進会議の意見	<p>・協議を進めることをしっかりやってほしい。その結果協働事業となることがいいのではないかと。          ・新しい取り組みとして、ぜひ協働事業として進めてほしい。          ・事業者も新しい公共の担い手ではあり提案内容も良いものではあるが、慎重に検討すべき点がある。</p>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>提案者が熟度を高めていくにあたり、次の点について検討いただきたい。          ・課題の解決に向けた継続的な協議をしていくことで、協働事業として育てていただきたい。</p>				



1. 事業名	<b>空き店舗活用による子どもの居場所作り</b>				
2. 提案者	NPO 法人地域家族しんちゃんハウス				
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バリアフリー、インクルージョンの社会を目指し商店街にも活気を取り戻す。全ての物の考え方が良く循環する社会を目指す。</li> <li>・ 子どもたちが生き生きできない町は発展しない。よって子どもの居場所作りをひとつでも多くし、商店街にも活性化をもたらすものである。</li> </ul>				
4. 事業の内容	<p>今の若いお母さん方は、本当に子育て頑張っています。でも、すてきな循環がなされていないのでストレスたまります。そんな結果として、辛い報道がなされ、とても寂しいかぎりです。母さんたちが笑顔で暮らせる町作りのために、自分たちの手で、自分たちの子育てできる居場所を提供し、次世代交流、地域交流、異文化交流と正しいものの考え方ができるような環境の提供。</p>				
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の提供、共有</li> <li>・ 広報活動</li> <li>・ 行政機関等との連絡調整</li> <li>・ 必要なランニングコスト</li> </ul>				
公開 検討 会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者		産業振興課 児童育成課	
		推進委員		杉山 小杉、 玉木	
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拠点が決まれば実現可。(児童育成課)</li> <li>・ 商店街の人たちがこれは街のにぎわいが成されるというチャームングな企画を出していきましょう。(小杉)</li> <li>・ 商店街との話し合いをしっかりとしたものを出して欲しい。(杉山)</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商店街にとっても賑わいをもたらすチャームングな企画を出していくという事で、みんなの意見は一致している。産業振興課との継続的な話し合いを通して、事業内容の熟度を高めてほしい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>提案者が熟度を高めるにあたり、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商店街にとって魅力ある提案内容を組み立てていくために、継続的な協議を進めることで、協働事業として育てていただきたい。</li> </ul>				

1. 事業名	<b>新体操教室</b>				
2. 提案者	大和市体操協会				
3. 事業の目的	大和市内の体操・新体操の好きな子ども達が楽しく練習出来る機会をつくり、総合型地域スポーツクラブの基盤つくりと、大和市内の体操・新体操愛好家の増大・普及・定着を目指す。				
4. 事業の内容	対象：市内の小学生 内容：新体操（男・女）の基本 男子-マット・跳び箱・ロープ 女子-ボール・リボン他				
5. 市に期待すること	・情報の提供、共有 ・活動場所の提供 ・広報活動 ・行政機関等との連絡調整				
公開検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他（検討すべき内容を含む）
		事業提案者			
		協働対象者		スポーツ課	
		推進委員		渡辺	熊谷
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者の要望を実現するためには、スポーツ全般についての考え方の整備が必要。（熊谷）</li> <li>・いまひとつ具体性に欠ける事業内容ですが総合型スポーツクラブの検討には関心をもっている。（渡辺）</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が市民と共に今後のスポーツセンター利用について議論を深めていくべき。</li> <li>・提案は、新体操の普及とあわせて場としての体育館の利用を希望されている部分もあるが、大きな捉え方をすると、大和のスポーツ振興を進めていくため、大和スポーツセンター等の公共施設の運営のあり方について問題提起されているものと受け止められる。</li> <li>・文部科学省が推進する「総合型地域スポーツクラブ」について、大和市ではいまだ方向性が決まっていないことから、今後検討いただきたい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>提案の趣旨を踏まえ、次の点について検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市の総合型地域スポーツクラブの方向性の検討を進めること</li> <li>・スポーツ関係の公共施設の運営のあり方について市民参加を得た検討を進めること</li> </ul>				

1. 事業名	<b>高齢者の体力作り支援事業</b>				
2. 提案者	社会福祉法人敬愛会 敬愛の園				
3. 事業の目的	高齢者に体力作りの場所や器具・人材を提供し、活用していただくことによって、高齢者がいつまでもお元気に在宅生活を続けられるように応援するのを目的とします。				
4. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の体力作りの為週1から2回の講習を実施します。</li> <li>・ 介護職員が見守りますが職員にトレーニングの専門的知識がありませんので、講師派遣（理学療法士や保健師の専門家の指導を受けたい）の協力を依頼したいと思います。</li> <li>・ 施設内での講習に限定せず地域の老人会やコミュニティセンターに器具搬送で職員が出向き利用していただきます。</li> <li>・ 介護職員が専門的な知識・技術を得る為の指導をうけ人材育成を図りたいと思います。</li> </ul>				
5. 市に期待すること	・会場の確保 ・開催告知広報 ・理学療法士や保健師の派遣協力				
公開 検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他（検討すべき内容を含む）
		事業提案者			
		協働対象者	高齢者福祉課		
		推進委員	宇津木、筑地		
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフターケアの具体的な方法を明示されたい【早急に】。メンタルケアについても同様。（筑地）</li> <li>・ 精神面を含めた総合的なケアを大切に。（池本）</li> <li>・ 社会福祉法人が持つ社会資源を地域に提供し行政と協働する意義は大きいと思います。（宇津木）</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護予防の考え方がますます重要となる中で、協働事業として推進すべき。</li> <li>・ 受講者のアフターケアやメンタルケアも重要。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	協働事業として進めていただくにあたり、次の点について検討いただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講者のアフターケア及びメンタルケアも含めた事業体制</li> </ul>				

1. 事業名	<b>まほろば子ども文芸大賞</b>				
2. 提案者	まほろば子ども文芸大賞 実行委員会 実行委員長 宮川 俊彦				
3. 事業の目的	<p>地域教育起こし、言語表現の再生 定式的、画一的な思索と自己表現が蔓延し、これが思考力の低下や教育の低下の原因になっているのではないか。 知識や技術だけを偏重していても実際に考えて表現していく子どもたちを育成していくことが出来るのだろうか。 また、朝令暮改の教育政策がそのまま教育実践に反映される短絡もみられるのではないか。 こんなことを考え、かかる時間こそ地域に根ざして真剣に子どもたちと向き合う教師や学校の根底的な教育力を醸成していく必要を感じています。 等身大の自己を自己の言葉で表現していく機会と場と、それを育むひとの輪が必要です。</p>				
4. 事業の内容	<p>大和市にある小中学校生徒からテーマにそった作文を募集し、最終選考に残った子どもたちの作文を当人が発表。そこから決勝審査を行う。(スピーチコンテスト) 審査委員 宮川 俊彦・舞の海・白石ユリ子・大和市から2名 言語表現講座の開催 思索・洞察・表現を高めるための講座を設ける。 開催単位：3ヶ月に1回の単位で開催。 対象者：受講を希望する全市民・教育関係者</p>				
5. 市に期待すること	<p>・情報の提供、共有・活動場所の提供・広報活動・説明会等への参加 ・行政機関等との連絡調整・経費の共有</p>				
公開検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者			指導室
		推進委員	木之下	大野、平塚	
7. コメント	<p>・指導室との調整はとても困難であった。(大野) ・市行政側としては、他の文芸賞があるというが、3つの視点から子どもたちの作文能力の育成をするものがあって良いと思うのです。青少年の健全育成の見方からのもの、学校としての適切な表現の育成から見たもの、一般市民的な社会全体的な視点から、ダイナミックに見たものの3点目の視点をもつものとして実現してほしい。(木之下) ・実現させたいです。「学校」をコアに展開できない現状なら、「学校外」という視点から子どもの書く力が発揮でき評価してくれる場を提案者と共に模索していきたい。(平塚)</p>				
8. 協働推進会議の意見	<p>・行政側からは、事業内容を鑑み、ある程度の判断できる方に出席していただきたい。単なる学校への「紹介」では、協働事業として曖昧さが増すだけである。 ・市から教育委員会や校長会に検討を依頼することはできないのか。</p>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<p>・教育委員会として、後援などどのような連携が可能か検討いただきたい。</p>				

1. 事業名	<b>ボランティア預託 LOVES</b>				
2. 提案者	山口久子				
3. 事業の目的	LOVES を使って、ニーズや社会資源を発掘し、意志ある個人や社会資源、ニーズをつなぎ、事業などをコーディネートする。				
4. 事業の内容	<p>現在、ボランティアセンターや、ボランティア講師に登録している人を中心に LOVES の使い方などを普及し、意志ある個人を募り、LOVE を媒体とした、たすけあい、相互扶助を促進する。</p> <p>これまでの単発的・一方的なボランティアから、継続的・相互的なたすけあいのシステムをつくりたい。</p>				
5. 市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の提供、共有</li> <li>・活動場所の提供</li> <li>・広報活動</li> <li>・説明会等への参加</li> <li>・行政機関等との連絡調整</li> </ul>				
公開検討会	6. 検討内容 (評価結果)		実現性が高い	熟度を高める必要がある	その他(検討すべき内容を含む)
		事業提案者			
		協働対象者			情報政策課
		推進委員			杉山、玉木
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事業応募団体で協働でやりたいところが出てきたら具体的にすすめたい。(事業提案者)</li> <li>・アイデアはよいが LOVES をどのように活用していくかが具体的内容になっていない。(杉山)</li> <li>・検討会当日に事業提案者、提案事業取り下げ。</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラブス運営委員会や市内部のプロジェクトで検討されるということで提案は取り下げられたが、この検討で提案者の想いが実現されることを期待したい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項					

1. 事業名	<b>「防犯マニュアル」作成事業</b>				
2. 提案者	安全なまちづくり課				
3. 事業の目的	犯罪の被害に遭わないで安全で安心して暮らすための「防犯マニュアル」を作成する。 (自己防衛方法、犯罪から子どもを守る方法、効果的な地域防犯活動、街から犯罪の死角をなくす取り組み、犯罪に遭った場合の対処方法、防犯グッズの紹介など)				
4. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「防犯マニュアル作成委員会」を設置。 (マニュアル作成には、専門的な分野の委員の参加が必要となることから、一部指定する委員が含まれる場合もあります。自治会、PTA、防犯ボランティア団体など)</li> <li>・委員は様々な分野より構成し、多角的な視点から意見を提案する。</li> <li>・各委員は「防犯マニュアル」を作成していく中で、それぞれ防犯知識を深めながら有効な防犯対策を調査研究していく。</li> <li>・委員会で検討した結果として、充実した「防犯マニュアル」が作成される。</li> </ul>				
5. 想定している 役割分担	<b>【市】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「防犯マニュアル作成委員会」の事務局運営 (委員会の開催、委員との連絡調整、情報の提供、検討された事項のとりまとめなど)</li> <li>・「防犯マニュアル」の印刷製本</li> </ul>				
	<b>【協働事業者】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯マニュアル作成委員会の委員として、知識、経験、資源、ネットワークなどを活用してマニュアルを作り上げる。</li> <li>・作成されたマニュアルのPR活動。また、マニュアルづくりで習得した防犯知識を、各委員が持っているネットワークなどを活用して広めていく。</li> </ul>				
公開 検討会	6. 検討内容		応募者	事業の内容に対する アイデア	その他問題点
		協働対象者	池本薫、ガーディアンエンジェルス大和支部、明るい街づくりの会、大和女性防犯協会		
		推進委員			百瀬
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方々に参加していただくため、8月に「防犯交流会」を開催する予定。交流会を通じてネットワークを拡げていく。(安全なまちづくり課)</li> <li>・「防犯」の定義が狭いのでは?今、問題となっている「おれおれ詐欺」対策はどうか?子どもの誘拐、わいせつ対策はどうか?以上からみても、法律実務家、教育関係者との協働も不可欠と感じる。(百瀬)</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募された方々の意見が反映されたマニュアル作りを進めてほしい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業として進めていくにあたり、次の点について検討いただきたい。</li> <li>・応募者との検討を進める中で提案内容の熟度を高め、協働事業としてよりふさわしい形にしていくこと</li> <li>・警察や教育関係者を含めた検討をすること。</li> </ul>				

1. 事業名	<b>道路環境美化ボランティアの里親制度 (アダプト・プログラム)</b>				
2. 提案者	土木管理課				
3. 事業の目的	駅前広場、繁華街道路、一般道路、歩行者専用道路などの公共の場所の清掃や花壇・植栽帯等の環境美化				
4. 事業の内容	市民にとって身近な公共空間である道路等の公共施設の環境美化を促進するため、市民等のボランティアによる環境美化活動を支援する環境美化ボランティア推進事業を実施し、環境美化に対する市民意識の高揚を図り、もって市民等と市が協働して散乱ゴミのない、きれいな公共空間の創出を図ることを目的とする。				
5. 想定している 役割分担	【市】活動者の活動に対し、次に掲げる事項を行うものとする。 環境美化活動に必要な物品等の支給又は貸与 ボランティア活動保険の加入 標示板の設置(アダプト・サインボード) その他環境美化活動に必要な事項				
	【協働事業者】活動者が行う道路等の環境美化活動の内容は、次に掲げるものとする。 活動区域内の空き缶や吸殻等の散乱ごみの収集 情報の提供(収集が困難な大量のごみや不法投棄の情報等) その他環境美化に必要な活動				
公開 検討会	6. 検討内容		応募者	事業の内容に対する アイデア	その他問題点
		協働対象者	つきみ野まちづくり委員会、東京電力(株)大和営業センター、たのしい会、大和秋香会		
		推進委員			河崎、百瀬
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃用具の貸与だけでなく、もっとダイナミックに対象者にゆだねて良いのでは。(河崎)</li> <li>・協働と公募の差がわからない。(百瀬)</li> </ul>				
8. 協働推進会議の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案が出されたことは評価する。しかし、公募型の提案で終わってしまうのではなく、市民とともに話し合いを通じて、協働事業としての形にするために熟度を高めてほしい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討を要請する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業として進めていくにあたり、次の点について検討いただきたい。</li> <li>・応募者との検討を進める中で提案内容の熟度を高め、協働事業としてよりふさわしい形にしていくこと</li> </ul>				

1. 事業名	“ふくしの手 全員集合”				
2. 提案者	福祉総務課				
3. 事業の目的	「大和市地域福祉計画」の進行管理の中で浮かび上がってきた課題である「人材募集」「人材育成」について、全市的なPRおよび人材育成の必要性が強く求められていることから、市民・事業者との協働により、課題解決に向けた取組みを行います。				
4. 事業の内容	全市的な福祉人材募集キャンペーンの実施 人材育成プログラムの検討・開発				
5. 想定している 役割分担	【市】				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報紙およびホームページへの掲載による意識啓発</li> <li>・ 市の施設の提供</li> <li>・ 関係機関との調整</li> </ul>				
6. 検討内容	【協働事業者】				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉人材募集キャンペーン、イベントへの協力</li> <li>・ 人材育成に関するプログラム開発</li> </ul>				
公開 検討会	7. コメント		応募者	事業の内容に対する アイデア	その他問題点
		協働対象者	NPO 法人ワーカーズコレクティブ 想、社会福祉協議会 敬愛会、パパポ ラやまと	社会福祉協議会 敬愛会	社会福祉協議会 敬愛会
		推進委員			河崎
8. 協働推進会議 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域が「福祉力」が問われる時代となる。ならば、福祉の力をどう捉えるかにより、福祉の手が明確になると思うが...。(敬愛会)</li> <li>・ 具体性が見えないため、どういう福祉の手が必要か、明確にしてほしい。(敬愛会)</li> <li>・ 地域に貢献するため、福祉の施設として何が期待されているのか明示してほしい。(敬愛会)</li> <li>・ 市の提案事業なので早速始まると思うが、事業開始後に行き違いが生じないように、協働の協定書の中で相互の役割をしっかりと確認してほしい。(河崎)</li> </ul>				
9. 具体的に検討 を要請する事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働事業として進めていくにあたり、次の点について検討いただきたい。</li> <li>・ 応募者との検討を進める中で事業内容を具体化していくこと</li> </ul>				



1. 事業名	<b>資源とごみの出し方変更に関する市民説明会協働開催事業</b>				
2. 提案者	環境総務課				
3. 事業の目的	家庭の資源とごみの排出方法及び収集方法をより多くの市民に周知・啓発することを目的として、市民団体等と協働により市民説明会を開催するものです。				
4. 事業の内容	平成18年4月から変更予定である資源とごみの排出方法及び収集方法についての市民説明会を、消費生活団体をはじめとした市民グループ及び地域代表者などと協働により開催する。				
5. 想定している 役割分担	【市】 説明会の企画・立案、説明会に要する器具等の調達、会場予約・準備、説明会の司会、変更内容の説明、協働事業者との連絡・調整など				
	【協働事業者】 参加者の呼びかけ(市民団体、地域、グループ、友人等) 担当者との変更に関する説明会事前勉強会、公共施設以外での説明会場所の確保(地域から要望があれば)と変更内容の説明など				
公開 検討会	6. 検討内容		応募者	事業の内容に対する アイデア	その他問題点
		協働対象者	小林敏興、山口 昭三	山口	山口
		推進委員			河崎、百瀬
7. コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民団体の参加を働きかけよ。(山口)</li> <li>・協働事業としての意味が不明確。(山口)</li> <li>・ゴミは市民、NPOの協働の本命。行政も本格的に取り組んで!(推進委員)</li> <li>・ゴミの問題は、事業者をまきこまないと進んでいかないのではないかと? A.そもそもゴミとなる包装紙などの問題。B.分別しやすくなっているかという問題。C.回収可能性についてのゴミの出し方のみの協働について今更必要かが不明(百瀬)</li> <li>・公募との違いがいまだ不明確。(河崎)</li> <li>・ゴミの減量化は日常的に行政と市民は協働している。共通の課題といえる。この協働事業を契機に、もっと日動的な意見交換やアイデアを出し合う場ができるといい。(河崎)</li> </ul>				
8. 協働推進会議 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単にごみの有料化についての説明会ではなく、ごみに対する考え方をともに考えるという内容が提案されるべき。</li> <li>・説明の手法について、市民の提案を受け入れる姿勢を持ってほしい。</li> </ul>				
9. 具体的に検討 を要請する事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働事業として進めていくにあたり、次の点について検討いただきたい。</li> <li>・応募者との検討を進める中で提案内容の熟度を高め、協働事業としてよりふさわしい形にしていくこと</li> </ul>				

## 大和市協働推進会議委員

代 表	渡辺 精子
副代表	中村 一夫
委 員	池本 薫
	内海 麻利
	宇津木 朋子
	大野 一枝
	河崎 民子
	木之下 純
	小杉 皓男
	小原 俊明
	杉山 和子
	玉木 佑未子
	筑地 成彦
	林 泰義
	平塚 恵一
	百瀬 比奈子
	熊谷 薫
八木 繁和	

## 大和市協働推進会議 事務局ボランティア

スタッフ	関根 孝子
	中島 双美

### 大和市協働推進会議事務局

大和市民経済部市民活動課市民活動支援担当

〒242-8601 大和市下鶴間 1-1-1

TEL 046-260-5103 / FAX 046-260-5138

URL <http://www.city.yamato.lg.jp/katudo/index.html>

【E-mail】 : [katudo@city.yamato.lg.jp](mailto:katudo@city.yamato.lg.jp)